

総会議事録

1 開催日時

平成25年5月30日（木） 13:30から16:00まで

2 開催場所

山形市役所11階大会議室

3 当日の会員数

個人411名、40団体、164事業者：総数615

4 出席者数

【委任状含】個人266名、30団体、122事業者：総数418（定足数308）

【実出席者】個人87名、24団体、10事業者団体、28事業者：総数149

うち、当日協力スタッフ19名（会場設営、受付ほか）

5 議事の経過及び結果

議長については、規約第11条第2項の規定により、総会出席会員の中から個人会員の大場恵子さんを選出した。

第1号議案 平成24年度事業報告及び収支決算報告について

承認

第2号議案 平成25年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

承認

6 質疑応答は以下のとおり

第1号議案 平成24年度事業報告及び収支決算報告について

（質疑なし）

第2号議案 平成25年度事業計画(案)及び収支予算について

（会員） ・会の活動について、たまに市報に載っているが、会の報告について、もっと市報を活用してはどうか？

（事務局長） ・市報の誌面の割り当てなどもあるが、工夫しながら広報していきたい。

（会員） ・百貨店やスーパーでは、ポップや包装紙など大量に捨てられているが、それについてのごみ減量啓発はされているのか？

（中村部会長） ・買い物エコフレンド部会では、簡易包装キャンペーンの開催や、情報交換会において、スーパー、百貨店に働きかけているところではあるが、包装については、完全包装を好まれるかたもあるため、難しいと聞いています。

（会員） ・簡易包装推進の話ではなく、事業者自身が紙資源を無駄に廃棄しているので、啓発が必要ではないかという意味である。

（事務局） ・スーパーや百貨店等での雑がみリサイクルキャンペーン実施の成果とし

て、従業員自体の意識が変わったことも挙げられているので、今後も継続して啓発を実施したいと考えている。また、市側の事業系ごみ減量に向けた取組みとして、大規模事業所減量計画書作成説明会に際し、本会作成のもったいないリーフレットやもったいないマップ Ver.3 の配布等を通じ、古紙を中心とした資源化の促進を図っている。

(会員)・市民活動まつりに参加した際に、分別クイズに挑戦したが、全問正解ならず、孫は満点であった。今後もこういった取り組みを継続してほしい。

(中村部会長) 分別クイズは環境展でも好評で、今後も活用していきたい。

小さいときからのごみ分別・減量について学習する機会が必要であると感じている。

(会員) 生ごみは家庭系と事業系どちらが多いのか？

(事務局) 家庭系の生ごみの方が多く、今後、生ごみ減量学習会やエコクッキング教室などで、生ごみ減量の啓発をしていきたい。

7 【第二部 情報交換会】

「みんなで目指そう！日本一！！」

～ごみゼロやまがたを目指して～

講師：株式会社ドンドンアップ

代表取締役 岡本 昭史（おかもと あきふみ）氏

○高校卒業後、アメリカへ渡り、色んな仕事をしながら暮らしていたが、身の回りのものはすべて、中古品であった。アメリカでは、古着リユースは当たり前であるが、日本ではなかなか浸透していない。

○現在、古着リサイクルショップ（ドンドンダウンオンウェンズデイ）を全国に62店舗（うち、県内3店舗）を展開中である。

○子どもの頃からの環境教育が大切であると言われているが、子どもが理解するには、楽しくなければならぬと考えており、CMなども工夫している。

○2012年度は合計6,100tの古着を回収しており、CO2吸収量で比較すると森林約50万本分が1年間に吸収する量に相当する。

○回収した古着の半分以上は店頭に並ばず、輸出されている。

○ドイツのパートナー会社では、機械制御で24時間稼動しており、衣類を裁断したホコリまでも、圧縮し、固形燃料にまでしている事例を紹介

○世界では、既に常識であるという古着回収ボックスについて、写真を例示しながら説明。デザイン性の優れた回収ボックスが多くあるという。

ドンドンアップにおいても、自治体と協力して、回収ボックスの設置を進めている。

○日本で、古着のリユースが当たり前になることが、CO2の削減など、次世代に

より良い地球環境を残すことになるのでは。

質疑 なし

8 その他

議事の前に、もったいないアワード2013の表彰を行った。

受賞者：蔵城美智子さん、佐藤妙子さん（計2名）

金澤会長より、表彰状を贈呈しました。（佐藤さん欠席の為、中村部会長が代理受領）

○もったいないアワードとは

運営スタッフとして、多くの事業企画に参加し、その活躍の顕著な方に対し表彰します。